

国際交流基金助成事業報告書

大阪薬科大学薬学部 3 年次生 野々垣早利美

はじめに

この度、国際交流基金の助成を受けて、平成 25 年 8 月 10 日から 9 月 1 日にかけてカナダ・バンクーバーを訪問いたしましたので報告いたします。滞在期間中は一般の語学学校に通いながら **Medical Interpreter** の講座を受講し、さらにホームステイをすることで多くの人と交流をもち、医療に関係した知識を得るだけではなく異文化に触れる経験をも重視し三週間を過ごしました。

1. Medical Interpreter introduction program

バンクーバーにある **mainland clinic** というクリニック内で行われている医療通訳のイントロダクションプログラムに参加いたしました。医療通訳とは、診察・検査・薬局などの医療現場において外国人患者と医療従事者とのコミュニケーションを成立させる通訳のことであり、文化による不安を取り除き、適切な医療サービスを受けられる手助けをするといった役割があります。

・ Healthcare System in BC

カナダの病院は救急患者の処置や専門的な検査または手術を行っており、外来患者の治療は原則として行われていません。住民は日本のかかりつけ医に当たるファミリードクターをそれぞれ持っており、ファミリードクターは必要に応じてレントゲンや採血等検査の指示、専門医や総合病院の紹介、処方箋を出したりします。このように専門医は専門的処置が必要な患者だけを診察し、軽度の病気はファミリードクターが診察するといった合理的な医療制度をとっており、またファミリードクターは患者の身体状況をよく把握しているために、病気の進行や副作用・合併症等を早期に発見できるメリットもあります。また、ウォークインクリニックと呼ばれる診療所があり、ファミリードクターを持っていない人や海外からの旅行者に向けた医療機関となっています。

・ Mainland clinic

日本語通訳の常在するクリニックであり、予約からすべて日本語で対応、旅行保険を持



Figure 1 Mainland clinic

っていけばキャッシュレスで医療を提供してくれるクリニックで、カナダ在住日本人のファミリードクターとして、また旅行者ウォークインクリニックとして利用されています。この医療通訳講座の受講者の中にも実際に利用された方が居られ、安心して医療サービスを受けられたとおっしゃっていました。



Figure 2 Medical interpreter 講座風景

回しの違いなども教えていただきました。

・ロールプレイング

週に一度のロールプレイングの授業ではネイティブの先生にお越しいただき、受付での対応、診察室においての通訳練習を実際に使用されているクリニックの受付や診察室を利用して行いました。実際に日本語を母語としない方と行うことで、通訳をしている感覚を味わうことができ、また、なかなか理解しにくい類

似した言葉、たとえば痛みの種類など、感覚的な使い分けの違いなども知ることができました。

・医療通訳講座

Mainland clinic で実際に医療通訳者として勤務されている Yoshie さんを先生として、解剖学から医療専門用語、医薬品、診療科ごとの疾患の症状の表現の仕方など、多岐にわたり勉強しました。少人数制の講座であるため、小さな疑問でもその場で質問することが可能で、納得いくまで理解を深めることができました。また普段、現場でよく使われる単語やフレーズであったりや、英語独自の言い



Figure 3 role playing

・ゲストスピーカー

実際にバンクーバーで活躍されているカイロプラクターの Dr Shimizu と心理カウンセラーの Yukiko 先生にゲストスピーカーとしてお越しいただき、お話を伺う機会もありました。それぞれの専門分野について英語での講義があり、Yukiko 先生は過去にあった一人の患者の症例についてお話しいただき、Dr Shimizu の講義ではカイロプラティックの概要やデモンストレーションをも見せていただきました。



Figure 4 カイロプラティックの施術室

2. ILSC

バンクーバーに数多くある語学学校の中でも特に規模の大きな学校の一つで、在籍する学生の国籍制限が設けられているために多国籍の学生がバランスよく集まる学校です。キャンパス内では **English only policy** により、母語を使用することが厳格に禁止されているため、たとえ日本人同士であってもでも常に英語を用いる環境がつくられています。



Figure 5 Communication class

・ Communication Class & Conversation Class



私の在籍したクラスにはブラジル、メキシコ、台湾、韓国、さまざまな国籍を持つクラスメートがいました。また、それぞれ年齢も職業や専攻も様々なバックグラウンドをもっており、その環境の中で英語によるコミュニケーションを核として文法や発音、語彙の習得を交えた授業が行われました。もちろん個人の性格による点ではありますが、日本人に比べて他の国籍の人々の積極的がとても強く、見習うべき姿勢としてとても印象に残っています。

3.街から感じたこと

街中には「London drug」や「Shoppers Drug Mart」といったチェーンのドラッグストアの店舗がたくさんあり、それらのなかには大きな調剤カウンターがありました。また、大型スーパー「Safeway」中にも同様の大きな調剤カウンターが設けられおり、薬剤師が常在しているため、あらゆる場所で OTC だけでなく処方箋をも手軽に薬剤師の管理・指導のもとで医薬品を購入できる環境ができていました。



また、街中にはサプリメント専門店が多くあり、前述のドラッグストアやスーパー内においてもサプリメントコーナーも大きく設けられていました。

滞在先のホストファミリーにおいても、2歳の子供から60代の **grandmother** まで日常的にサプリメントを多量に摂取しており、健康を維持するための身近な手段としてとらえられているようでした。

おわりに

今回の研修を通して、多国籍の人々と交流をもつことで、背景に持つ文化の違いによって、考えを共有することの難しさを感じました。たとえば、日本人同士であれば上手く英語に出来ていない場面でも意図していることが簡単に伝わるのに対し、ラテン系の人に対してはいくら正しい英語の文章で発していたとしても、なかなか理解してもらえない場面が何度かありました。移民の地であるカナダはさまざまな人種が住んでいる国であり、私のホストファミリーももともとフィリピンからの移民でした。そのため英語の発音に少し独特のアクセントがあり、時折聞き取りづらく、また生活習慣の違いから言いたいことを理解してもらえず、学校での会話以上に難しく感じることもありました。アジア人同士では比較的文化や英語の発音の癖も似ていることからコミュニケーションを取りやすいものの、その中でもやはり価値観の違いは感じました。しかし、時間を共有すればするほど共通の認識ができ、最初はまったく意見を交わすこともできなかった人でもコミュニケーションが成立するようになるということも大きな発見でした。加えて、薬学に関係した医療英語を学ぶだけでなく、医療通訳という立場から勉強することで、医療について興味が深まっただけでなく、人との関わり方について深く考えることができました。



これらの経験から語学力の向上はもちろんのこと、相手を理解しようとする姿勢がコミュニケーションの第一歩であり、人と接するうえで同等に重要なのではないかと私は考えます。

今回国際交流基金の助成により、このような貴重な機会を設けていただいたこと、大変光栄に思います。